

日本の木造建築を考える連続セミナー

■共催 NPO 法人設計協同フォーラム 新建築家技術者集団東京支部
多摩・産直すまいづくりの会 一般社団法人エコハウス研究会

■会費 各回 2000 円 ■会場 東京都板橋区立グリーンホール 504 会議室
東京都板橋区栄町 36-1 TEL 03-3579-2221

■定員 50 名(申込順で締め切ります)

■申込先 [丸谷博男のメール h.maruya@a-and-a.net](mailto:h.maruya@a-and-a.net)

● 東京埼玉神奈川セミナー (11,12 月分は予約待ち)

各回 18 時開場 18:30~21:00

第 1 回 06 月 18 日 (木)

第 2 回 07 月 23 日 (木)

第 3 回 08 月 06 日 (木)

第 4 回 09 月 10 日 (木)

第 5 回 10 月 22 日 (木)

第 6 回 11 月 05 日 (木)

第 7 回 12 月 03 日 (木)



■ メッセージ

日本の木造建築。縄文、弥生時代から始まり、飛鳥・天平時代の仏教建築で飛躍的に開花。奈良時代、平安時代は、日本化への道をたどる。その日本化は、仏像、文字、和歌など全ての芸術にわたっての進化だった。宮殿では寝殿造り、宇治の平等院、厳島神社。平泉の金色堂。あまりにも美しい建築が生み出された。

鎌倉、室町時代は武士の時代。質素を重んじながらも独特の美しさが尊ばれた。平安時代の雅とは大きく異なる。質実剛健でもあった。禅宗の影響は大きい。そこには、繊細と切れ味があった。庭園とのつながりも新しい日本人の感性が広げられた。銀閣寺の東求堂は禅宗の喫茶空間として作られた。そこから書院造の定式化がはじまる。また、同時期に中国から伝来した能が日本に受け入れられる。観阿弥、世阿弥が現れ能の日本化も完成して行く。

戦国武将たちは、喫茶と能を重んじ、さらに発展して行く。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康とつながる。

安土桃山時代は、西洋文化が武士たちの世界に大きく影響する。鉄砲と同時にキリスト教や活字印刷が伝わる。絵画では狩野派の世界が展開する。建築では築城の技術が発展し土木技術も進化する。犬山城、安土城、松本城、大阪城、竹田城、名護屋城、そして姫路城。さらに西本願寺飛雲閣、醍醐寺三宝院がある。

江戸時代には、庶民文化が花咲く。上方文化と江戸文化が拮抗する。浮世絵、歌舞伎、浄瑠璃、落語、洒落本など数限りない。商人の経済力が膨らむと全国各地に今も残る町家が作られる。武家文化・書院も取り入れながら、豪壮で繊細な町家と民家が造られる。

そして、文明開化。(この先は、セミナーでよろしく。)

日本の木造建築を考える連続セミナーの内容

第1回 木造建築の始まり by 丸谷博男

法隆寺金堂・五重塔（飛鳥時代）から唐招提寺金堂（天平時代）へその時代の木材と加工技術、朝鮮の百済・新羅、中国の随・唐の建築と比較して、japanese senseをとらえる。竪穴住居から法隆寺の構造へ、驚きの発展。寺院建築の構造は免震構造。屋根の重さがそれを支える。

第2回 木造建築の定式化・書院建築 by 丸谷博男

平等院など貴族文化が花咲く平安時代に進んだ日本化。そして武家社会に洗練される書院建築。さらに、禅宗の影響で繊細な美が定着する。それらの共通性と独自性を整理してみる。

第3回 木造建築のもう一つの表現・民家・数寄屋 by 丸谷博男

木割りで造られる書院建築に対し、木割りのない民家。その構造の力強さと、詫びの世界。そこに美を発見したワビ茶の文化。書院建築の中にワビの表現が移入して行く。武家茶の世界へと。小堀遠州の世界が広がる孤篷庵。桂離宮は貴族文化との融合。

第4回 木材から見る日本建築の歩みと今 by 杉岡世邦（林業家）

日本の育林の歴史と大規模建築の造営を概観する。平家により焼失した東大寺。その再建を命じられた重源は、山口県徳地の山奥にしか調達できる桧がないことを知り、木材を伐り出すために川底を整備し、轆轤を仕掛け、瀬戸内海までの道を国司となって采配した。それが鎌倉時代。すでに身近なところには大径木の桧がなかったことに驚く。桧と杉の歴史を読み解きたい。

第5回 日本の民家に学び、再生する by 金田正夫

民家は多様、そして上手が集まって、人々の協同によって建築され維持管理されてきた。そうした民家に発見できる驚きは数多くある。さらに、それらの民家をこれからも使い続けるためにはどのような知恵が必要か実践から学び整理する。

第6回 現代木造建築の行方 by 丸谷博男＋松井郁夫

1950年に発足した住宅金融公庫。その標準仕様としてつくり出された在来工法という大変貧弱な工法。今改めてその問題に気付く。伝統工法、バルーン構法、そして現代の欧州で取組まれる枠組み工法、さらにCLT工法。これらの動きを整理し、日本の進むべき木造工法を展望する。

第7回 現代木造建築・北欧デザイン

by 井上雅義

北欧モダンデザインの特徴は、スカンジナビアの木材など自然素材を使い、柔らかいイメージの曲線を生かすデザインです。北欧デザインは1950年代にアメリカで大流行し世界的な影響力を持つようになりました。その精神はアルバー・アールトから引き継がれ、今もなお新鮮なデザインが展開されています。

